

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・各教科等において問題解決的な学習を行い、主体的に考え表現する活動を意図的に計画し、児童同士が伝え合い、高め合う授業を目指す。	中間評価		最終評価	
環境作り		・特別支援を必要とする児童が落ち着いて学習に取り組むことができるように、まなびの教室の教員と協力して教室環境、学習環境を整備する。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学話すことについては意欲的だが、聞く力は十分身に付いていないといえない。話し方についても、よい姿勢や適切な声の大きさで、分かりやすく話すことができる児童は多くない。 学新出漢字を丁寧に書いて練習するなど意欲的に取り組む一方、定着には個人差がある。また、文章を書く際、句読点や助詞の使い方がまだ定着していない児童がいる。	・集中して、大事なことを落とさずに話を聞けるようにする。 ・自分の書いた文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに気付き、正す力を身に付けさせる。	・授業中に、尋ねたり、応答したり、小グループで話し合ったりする活動を意図的に取り入れる。また、話す人の方を向いて話を聞く習慣を付けさせる。 ・「〇〇について話します。」と言うなど、話の要点をとらえやすい話し方を教師がする。 ・様々な学習場面で「視写する」「自分の思いを書く」活動を取り入れ、書いたものを声に出して読み返すようにさせる。 ・視写や、文法事項の学習を、朝学習の時間に計画的に取り入れる。		
	算数	学ほとんどの児童が二位数の加法及び減法について、計算の仕方を理解している。しかし、一位数の繰り上がりや繰り下がり の計算がまだ身に付いていない児童もいる。 学自分の考え方を説明したり、友達の考え方と比べたりする力がまだ不十分である。	・繰り上がり、繰り下がりのある計算が正確にできるようにする。 ・話し合いによってよりよい方法を導き出したり、問題を解決したりすることができるようにする。	・基礎・基本の学習を充実させる。具体物を操作したり、図に表して考えたりするなどの活動を取り入れる。 ・小グループの活動や、児童相互のコミュニケーションを重視した学習スタイルを定着させる。		
3	国語	調「話を聞き取る」の平均値は全国の平均を上回る結果であったが、個人差が大きい。 学授業中に自分の考えを説明する際には、相手意識をもち、分かりやすく話すことができる児童が多い。 調領域「書くこと」の正答率は、目標値を7ポイント下回っている。目的に応じて、定められた字数で作文することを苦手としている児童が多い。	・「話すこと・聞くこと」の力を、今後さらに学習や日常生活の中で生かすことができるとよい。互いの話に耳を傾け、話の要点を適切に掴み、理解し表現する活動を計画的に取り入れる。 ・文章を書くための基本的なスキルを高めるため、日常的、継続的に個別指導を重ねていく必要がある。	・全ての教科、領域の土台となる国語科の力を高めるため、スピーチやペアトークなどを積極的に授業に取り入れる。、教育活動全体を通して「話す・聞く力」「書く力」を伸ばす。 ・文章を書くために必要なスキルを補うため、朝学習や家庭学習で書くトレーニングを重ね、書く活動に慣れさせる。		
	算数	調「数と計算」領域は、目標値を2.8ポイント上回っており、概ね理解していると考えられる。 調「量と測定」領域においては、目標値を1ポイント下回っており、定着に課題が見られる。 調観点別正答率を見ると、算数への関心・意欲・態度のみ目標値を下回っている。 学考え方を書いて、説明することはできるが、話し合って解決することには慣れていない。	・「長さ・かさ」について理解が十分とは言えないので、実際に測定させる機会を多く設けて、習熟させていく。 ・学習に主体的に取り組むことができるよう、活動を工夫していくことが求められる。 ・考えを比べたり、話し合ったりして問題を解決する力を伸ばす必要がある。	・算数の授業はもちろん、その他の学習や生活においても、意図的にものさしやますを使う経験を積みせる。 ・朝学習の時間に、計画的に、長さやかさに関する問題に取り組ませる。 ・身近な生活場面を取り上げるなど、児童の興味、関心をひく問題を提示する。 ・児童が必要感をもって解決に取り組めるような課題を設定する。 ・習熟度別少人数指導の利点を生かし、ペアやグループでの話し合いを多く取り入れる。		
4	国語	調全体的な正答率が目標値を7ポイント上回っており、昨年度までの学習内容が概ね身に付いていると言える。特に「活用」問題については前年度から6ポイント上昇している。 調目標値は上回っているものの、領域「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は前年度を下回っている。 学漢字の習得状況については、個人差が大きい。 学叙述に即して、物語の場面や主人公の様子をとらえる力が十分とは言えない。	・相手や目的に応じた文章を書く力を伸ばす。 ・国語辞典や漢字辞典を使いこなすことができるようにする。 ・新出漢字を正確に書けるようにする。 ・物語を読むときは、叙述をもとに豊かに想像できるようにする。	・様々な種類の文章を書く力を身に付けさせるため、授業中に短文作りを行ったり、テーマ作文に取り組ませたりする。 ・学級に国語辞典と漢字辞典を常備し、国語科の授業中を中心に、辞典を引く機会を多く設ける。 ・新出漢字の練習では、なぞり書きや、手本を見て書く学習を丁寧に行うことで、細部まで正しく書こうとする意識を高める。 ・「読むこと」の学習で、必ず叙述に根拠を求めて説明させる。		
	算数	調領域別に見ても、観点別に見ても、全ての項目で目標値を上回っており、学習内容を概ね理解できていると考えられる。 調内容別に見ると「たし算・ひき算」が目標値を9.8ポイント下回っており、筆算の習熟に課題が見られる。 学問題を正確に読み取ったり、考え方を適切に表現したりすることが困難な様子が見られる。	・4学年での学習に支障をきたさないよう、たし算とひき算の筆算に習熟させる。 ・問題場면을正確にとらえる力や、考え方を図や式で表す力を伸ばしていく。	・朝学習の時間を使って、筆算の習熟に繰り返し取り組ませる。 ・一定の時間内に正確に問題を解く練習を定期的に取り入れる。 ・一つの単元の中で、様々な形式の文章問題に取り組ませる。 ・授業中、自分の考えをノートに書く時間を十分に確保する。		

	国語	調ほぼすべての観点において目標値を上回っている。 調漢字の書き取りでは、約１０％の児童が無回答、誤答であった。 調「意見文を書く」では、全国正答率を６．９ポイント下回った。また、「作文」では、無回答児童が１６．３％いた。	- 漢字を正確に書き、文章の中で適切に用いることができるようにする。 - 文章を書くことに対する抵抗感を無くし、目的意識をもって書くことができるようにする。	- 朝学習の時間を使って、既習漢字の練習に繰り返し取り組みせ、成長を実感させる。 - 相手意識、目的意識をしっかりともたせてから文章を書くようにさせる。 - 全ての児童が何のために書くのか、だれに伝えるのかなどの目的意識をもって書けるような学習を設定する。		
5	算数	調平成２９年度の調査で課題だった「図形」については、平成３０年度、目標値を１５．６ポイント上回り、学習内容の定着が見られた。 調「数と計算」の「命数法で書かれた数の記数法での表し方を理解している」では、目標値を８ポイントほど下回っていた。「億と兆・がい数の表し方」について、復習が必要である。 学授業中に一度理解したことでも、一人で取り組んだり、時間をおいて取り組んだりすると、解き方が分からなくなってしまうことがある。 学解き方は分かっているのに、計算を間違えて正解に結び付かないことがある。	- 整数、小数への理解を深め、数のしくみに関する問題を正確に解けるようにする。 - 授業から時間が経過しても確実に解くことができるよう、学習内容をより定着させることが求められる。 - 本年度の学習を進めていくための基礎となるため、正確に計算する力をさらに伸ばす。	「整数と小数」の単元で数のしくみをおさえることはもちろん、普段の生活においても、正しく数を読んだり書いたりすることを意識させる。 - 基礎・基本となる計算力を身に付けさせるため、朝学習の時間等を使って反復練習を行う。		
6	国語	調平成３０年度の正答率は６２．５％と、全国平均を７．５ポイント下回っている。観点別に見ると、「書くこと」に関わる作文や、「言語についての知識・理解・技能」の漢字の読み書きなどにおいて、全国平均を大きく下回った。 調「読むこと」に関しては、目標値を上回る結果となった。 学既習漢字を使えない児童が多数いる。また、語彙力が乏しく、話合いに慣れていない傾向が見られる。	- 漢字や熟語の意味を理解し、文脈に沿って読んだり正しく書いたりする力を育てる必要がある。 - 主述の関係を明らかにするなど、文法に関する理解を確実にする。 - 語彙力を向上させる。	- 正しく使えるよう、漢字のもつ意味を考えることを指導する。 - 書くことに対する抵抗感をなくすため、他教科においても書く活動を取り入れたり、宿題の中で繰り返し文章を書かせたりする。 - 語彙を増やすという目的を明確にして、効果的な言語活動を行う。		
	算数	調「量と測定」領域は目標値を上回っており、概ね理解できていると考えられる。 調内容別に見ると、「整数のなかま分け」「小数のかけ算・わり算」、「分数のたし算・ひき算」、「合同」が目標値を下回っている。 学既習事項の定着が不十分なため、新しい学習内容について理解しても、自分自身の力で最後まで解くことが難しい様子が見られる。	- 本年度の学習内容を定着させるために、前学年までの既習事項の確認を行う必要がある。 - 具体的な問題場面の解決を通して、抽象的な概念が理解できるようにする。	- 各単元の導入時に、既習事項を確実におさえる。 - 計画的に朝学習の時間を使って、前学年までの復習に繰り返し取り組ませる。 - 単元の理解を確実にするため、ワークテストの間違い直しに力を入れ、プリントを用いて定期的に復習させる。 - 問題場面や解決に使う計算をイメージしやすくするため、具体物や半具体物を用いたり、数値を簡単なものに置き換えて考えたりさせる。		
音楽	学	各学年とも、歌唱や器楽の活動への関心、意欲が高い児童が多い。音楽で表現することを楽しさを感じている児童が多いと考えられる。しかし、思いを言葉で表現したり、思いや意図をもって表現したりすることには意欲的でない児童も多い。また、音楽を形作っている要素を聴き取って、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることに関心が少ない児童が多いと思われる。鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏では、指使いなどの技能に個人差がある。	- 感じ取ったことを言葉で表現したり、想像力をはたらかせて音楽と関わったりできるようにする。 - 音楽の共通事項を理解して楽しみながら主体的に思いや意図をもって表現できるようにする。 - 鍵盤ハーモニカやリコーダーについて、習熟の個人差をなくす。	- 各教材において、想像したことや思いを言葉で表す活動を適宜行ったり、ワークシートに書く活動をさせたりする。 - 語彙力を高め、どのように表現したいかを説明できるようにするために、音楽室に掲示した、気持ちを表す言葉と共通事項の言葉を授業に取り入れる。 - 友達と聴き合ったり、思いを伝え合ったりして、楽しみながら高め合い、表現できるようにするために、グループ活動を適宜取り入れる。		
図工	学	各学年共に関心・意欲は高い児童が多い。高学年では題材によっては意欲をもてない児童が見られる。発想や構想の能力には個人差がある。他の児童の作品を見たり、会話したりする中から新たな発想を広げている児童が多い。創造的な技能については題材ごとに指導をしているが、道具の使い方が身に付かない児童がいる。鑑賞活動については、意欲的に取り組んでいる児童とそうでない児童の差が大きい。	- 様々な題材に対して、関心・意欲をもてるようにする。 - 正しい道具の使い方を身に付けさせる。 - 鑑賞活動に意欲がもてるようにする。	- 様々な題材を取り入れ、児童の関心・意欲を引き出す。 - 既習事項を繰り返し確認、指導しながら授業をする。既習事項を生かした学習を設定する。 - 授業において互いの作品を見合う時間を取り入れ、見るポイントを提示したりするなど、思いを交流する活動を大切にしていく。		
特支	学	在籍学級の観察及び保護者との面談等を通して、児童の実態を把握する。	個人差はあるが、発達特性から、コミュニケーション能力や読み書き、運動能力等に課題が見られる。	個の課題を的確に捉え、個に応じた指導を充実させる。小集団指導では、コミュニケーション能力や運動能力を高める活動を設定する。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は２ページ以上となってもよい。